

第2回新しい文化芸術施設の整備に関する検討懇談会主要発言まとめ

項目	内容
施設の機能・規模 (大ホール)	大ホールはシンフォニーホールと機能分担し、音響反射板をつけないほうが使い勝手が良いと思う。
	シンフォニーホールでは行うのが難しい音楽公演の使用も考えると、大ホールにも音響反射板が必要。現在も、公演の内容によって市民会館とシンフォニーホールの使い分けをしている。
	せりはぜひ付けてほしい。
	大ホールに親子鑑賞室を設置してほしい。幼少のころから良い舞台を見せてあげた方がよい。
	大ホールに音響反射板を備えると、シンフォニーホールが使われなくなる。役割分担を明確に考えた方がよい。
	シンフォニーホールの利用方法の話としては、1階客席だけの利用、2階客席までの利用など、パターンにより料金を可変させることも検討している。大ホールでもそういったことをしてもよいのでは。
	大ホールを1階部分のみで利用することで900席程度のホールとできないか。
	ホール自体の規模が大きいので、演劇の鑑賞に、大ホールを使うと、1階客席だけの使用でも、臨場感が薄れ、演劇鑑賞の魅力が大きく損なわれる。生の舞台芸術のためのホール規模は、1,000席が上限である。
施設の機能・規模 (中ホール)	中ホールは500～700席程度が市民団体の活動などでも使いやすく、稼働率も良いのではないか。
	中ホールは、出演者に聞くと、観客との臨場感などから350席程度を好む人が多いが、採算の話をする、700席程度必要と聞く。臨場感を保てる規模感としても700席が上限と考える。
	演劇に適した劇場としては700席でも大きい。900席は大きすぎる。
	現在の市民文化ホールの最大利用者（市のデータを基に算出すると24年、25年平均で、本番開催が約25%、人数が約35%）と考えられる岡山市民劇場としての立場から、（また全市的にみても）演劇上の効果からすると小さいほうが良いが、経済面とのバランスを考えると、中ホールは900席規模が必要。プロの意見でも費用とのバランスで建物規模を考えると900席が必要と聞いた。
	900席で、450席ずつに区切れるようにしたら、小さいホールとしても使い、稼働率が上がるとの地元演劇関係者の意見がある。
	現在、市民文化ホールにおいて1回当たり600人以上及び800人以上の利用が60%以上であり、700席では、その半分以上が利用できなくなるか非常に不便になるので、700席では小さく、稼働率も下がると考えられる。
	900席を450席で区切るというのは、建築的に非常に大掛かりでコストがかかると考える。過剰設備はさけ、適切な規模のホールとするべき。
施設の機能・規模 (大スタジオ)	大スタジオの天井は、照明等吊り込みのしやすい全面トラスとしてほしい。
	他の施設を見ていると、クリエイティブなことができるため、大スタジオが一番活気がある。バックヤードや工房を考えて、無駄がなく、今後有効に使えるものを考えてほしい。
施設の機能・規模 (その他)	工房や倉庫は別棟でも良いので用意する必要がある。
	映像設備には進化したデジタル機能や通信と融合したマルチメディア機能を導入してほしい。
	練習室・リハーサル室を臨時の楽屋として利用することを考えるなら、ホールの本番の様子が見えるモニターを設置しておいてほしい。
	新しい施設ができることで、既存の施設にも影響を与えてより良く変化していければ良いのではないか。
	繰り返し、連続で使うと利用料金が安くなるなど、利用者拡大について、運用面で考えることもできる。
施設の機能ゾーン・動線	主催者事務室はホワイトよりオープンロビーにあったほうが使い勝手が良いのではないか。

項目	内容
展開する事業と組織体制・役割	創造型劇場では、従来の市民活動を大事にすることも、他県から誘客し、作品を見てもらうことも重要だが、どういう方向性で創造事業を行うのかによって、組織体制や役割などが決まる。方向性を明確にしないと、あいまいで、従来の施設と変わらなくなる。
	再開発事業での整備であることを踏まえ、劇場が持っている社会的ミッションを基本計画で触れてもらいたい。グランドデザインを含めた劇場を核にしたまちづくりをどうするのか、位置づけてほしい。
	学芸部門にアートマネジメントの専門家の養成が必要。
	企画・営業・広報の業務が連動できるよう専用のワークルームを設けて、より戦略的な劇場経営をしてほしい。
	既存の市内ホールは情報機能が弱い。地域のことや他の劇場の情報を常に収集・発信してほしい。広島や福山は情報収集・発信しており、情報目的で施設に行く人もいる。
	営業や広報の面では、新しい友の会組織について検討してほしい。
	他県にないような施設にしてもらいたい。そのためには芸術監督など専門家の配置についても基本計画で触れた方がよい。
	施設運営に係るボランティアの組織化やスタッフの外部委託についても検討が必要。
	現在行われている市民活動を継続、発展させる視点を大事にしてほしい。
	劇場が人間中心になるためには、鑑賞活動においても提供型は古く、参加型を目指していくべき。それが感動や成長につながる。
	指定管理者制度で、指定期間（５年など）終了後、次回の指定管理者がどうなるのかわからないと職員が思っているのは、市民とつながる事業が行えない。職員は劇場に腰を据えられることが必要。
	劇場に足を運ぶことがない人達など、まだ見えていない人と関わっていくことを考える必要があり、劇場にはそうした社会的使命があると思う。
	育成事業や創造事業は、場所がなくてもできることはある。今すぐでもできる。北九州も劇場ができる何年も前から行っていた。
	容れ物ができてから体制や人（スタッフ）を考えるものではない。劇場とはなんだろうと考えると、容れ物の話ばかりになっているが、実は人がいる場所。市がどんな文化プランを持っているのかに関わる。
	劇場は一度つくると５０年単位。５０年後にどうなっているかを考えないといけない。
	岡山市は文化的にどんなポテンシャルを持ちたいのか。思い切った個性を打ち出しても良いと思う。
	組織体制は、あまり細分化するべきではない。物事を判断するとき他の役割の状況が常にわかるのが大事。バラバラに分けられていると物事の判断が困難である。
	現在、市民活動の中で、育成事業と創造事業を同時に行っている。これらは徐々にできるものではなく、同時に行うことで、前に進んでいくものである。
	最初に目標を明確にして、資金や人材を定めることが必要。将来的に展開する創造事業は、具体的に何を、どこまでつくるのかという水準レベルを考えないといけない。
	創造事業は、規模の程度はあるが、例えば市民の発表活動などを最初から入れていく方がよい。
劇場ができる前に動き（活動）はあるべきだが、建てて終わりではない。良い演目を出して感動してもらい、そこに行けばいろんな情報がある、人に会える、その両方を劇場は持たなくてはならない。出来てからが大変で、人も金もかかるが、劇場がまちにあることは市民の誇りとなる。	
人材育成事業と創造事業は一緒の概念だと思う。考え方が劇場だと思う。	
芸術監督を入れたほうが良い。将来的な目標が明確になる。また、舞台技術部門に技術監督も入れたほうが良い。	
施設を利用してもらうためには、開館日や開館時間は、市民の利用シーンを考えて配慮すべき。	
劇場に若い人が来ることが大事。劇場に人が集まる仕掛けを徹底的に考えるべき。	

【追加意見】

項目	内容
施設の機能・規模 (大ホール)	中ホールに関しても共通したことだが、車椅子席の位置と動線を考慮して設置してほしい。難聴者のためのケアシステムを導入してほしい。
施設の機能・規模 (中ホール)	岡山市の芸術文化団体と創造事業で利用される劇場（中ホール）を、コストをかけずに、プロの舞台の鑑賞と市民団体の活動に適した規模の900席と、創造事業等の発表の場に適した規模の450席で区切り利用できるアイデア、方法は本当にならないのか？これこそが、大ホールと劇場（中ホール）の稼働率が一番上がり、市民が集い、創造する場所になると考えられる。
施設の機能・規模 (その他)	<p>オープンロビーは、街のにぎわいづくりや劇場へのアクセシビリティを高める役割が期待できるので、カフェや展示スペースはもちろんのこと、アウトリーチやワークショップ等の劇場の活動が可視化できるようなスペースが設けられると良い。</p> <p>既存の近隣ホールとのすみ分けを考える必要がある。機能面からは、①クラシック音楽を中心とした音楽堂としてのシンフォニーホール、②コンサートや集会等を中心とした多目的ホールとしての市民会館、③クラシック音楽以外の全ての舞台芸術に対応し、プロの舞台鑑賞と市民の活動の拠点としての演劇専門劇場、④市民の創造の拠点としての大スタジオ、と考えてはどうか。規模（座席数）は、①2,000席のシンフォニーホール、②1,600席の市民会館、③900席の演劇専門劇場、④イオンモールにできた700席の未来ホール、⑤300席の大スタジオ、と考えてはどうか。民間との競合も避けるべきである。そうした考え方は市民目線で考えて理解を得やすい。</p>
展開する事業と 組織体制・役割	<p>地域に開かれた劇場づくりについて、千日前地区との関係性と可能性を簡単に列挙すると――</p> <p>①まちづくりの拠点施設（千日前・三丁目地区の疲弊した街区の再生と京橋・中島地区の新しい旭川ルネサンスの創生）</p> <p>②社会包摂機能の施設（経済的弱者や社会的マイノリティーを多く有する地域において、文化芸術がその価値を拡充し公益的セクターとして活躍する拠点）</p> <p>③緊急避難・都市防災の施設（中心市街地の一角にあり、旭川河畔に隣接した立地から市民の緊急避難場所として、都市防災の要所として重要な役割）</p>